

喫煙者はいよいよ外堀を埋められ、城内に籠城する事態にまで発展したが

姫路駅前～姫路城に7か所あった喫煙所の内の6か所が閉鎖の運びとなり、姫路城内三の丸広場にある喫煙所1か所を残すのみとなった。戦国時代でいえばいよいよ兵糧攻め、城が落ちるのは時間の問題と言ったところである。それでも JT(日本たばこ産業)は兵糧を送り込む。

さて、この喫煙場所というのも考えてみるにおかしい。姫路市としては市民や来訪者にサービスの場を提供しているということなのであろうが、それでもおかしい。JTがタバコを売って利益を得、その利益創出のお手伝いのために姫路市が市内に費用をかけて喫煙所を運用している、この構図がおかしい。姫路市民が収めた血税がJTのために使われているのであるから、市民は文句を言うべきところだと思うのだが、ホスピタリティのある姫路市民の心は実に広い。

新 報 日 2019年(令和元年)9月28日 土曜日 わがまち 22

## 大手前通り 喫煙所撤去へ

### 県条例改正前に市、本年度中7カ所

姫路市は、JR姫路駅や姫路城の周辺にある8カ所の喫煙所のうち、壁などで明確に区切られていない7カ所を、本年度中に撤去することを決めた。県の改正受動喫煙防止条例が2020年4月に全面施行されることを踏まえた措置で、観光客や買い物客の受動喫煙を防ぐ。(谷川直生)

県条例では来月4月からの喫煙所は14年度に整備された。市によくと、特に夕の6時)などの都市公園をクシーの降り場近くにある受動喫煙防止区域と規定。北駅前広場の喫煙所は「指壁などで明確に区切っていない場所」は禁煙となるため、公園内の大手前公園(姫山駐車場)市立美術館西側1など5カ所を撤去する。さらに、同区域外の姫路駅前広場と白銀交差点南東の2カ所も「県条例の趣旨に反する」として撤去する。壁で囲われている姫路城三の丸広場の1カ所だけ残す。

北駅前広場と白銀交差点市は整備が完了している。撤去は壁の増設や喫煙所の撤去を検討するとしていたが、方針を転換した。市の担当者は「人の往来が多く、受動喫煙を防げない」と判断した」と説明する。また、

姫路駅北駅前広場の喫煙所。喫煙スペースからはみ出る利用者も多い＝姫路市駅前町

路駅南側の広場を来月4月から路上喫煙禁止区域に指定。区域内で喫煙すると千円の過料が徴収される。

環境問題への理解を深めてきよう大手前公園をこ環境問題への理解を深めるイベント「ひめじ環境フェスティバル」が28日午前9時～午後4時、姫路市本町の大手前公園などで開かれる。サイエンスショーや音楽ライブなど



禁煙 (Wikipedia) によると、禁煙の歴史は古く、それでも人は喫煙をやめられない。

禁煙それ自体は歴史的に古く、1575年にメキシコで禁煙条例が出され、メキシコの教会またスペインのカリブ植民地で禁煙が命じられた。またオスマン帝国でも1633年、喫煙を禁止した。同時期に欧州でも喫煙者を教会から破門すべきかどうか議論された。16世紀後半にはオーストリアやバヴァリアで、また1723年ベルリンで、1742年ケーニヒスベルクで禁煙条例が出され、1848年の革命で廃止された。国民規模で行われた禁煙運動はナチスによって行われた。ナチスは大学、郵便局、軍用医院などが禁煙にされた。第二次世界大戦後から現在にいたる禁煙運動は主にアメリカ合衆国からはじまっている。